

1 調査経過

興福寺では「興福寺境内整備構想」(1998年)にもとづき、寺観の復元・整備が進められている。奈良文化財研究所(以下、奈文研)では1998年以来、整備に必要な情報を得るための発掘調査(中金堂院、南大門、北門堂院、西室、中室、経蔵、鐘楼)を継続しておこなってきた。今回もその一環として、鐘楼および東金堂院において、2020年度から2022年度の3カ年にわたって発掘調査をおこなった(第1表)。

調査区は鐘楼と東金堂院に計6カ所設定した(第1図)。鐘楼では2015年度に鐘楼基壇の一部を発掘調査したが(『興福寺 第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅶ』2015年、以下『概報Ⅶ』)、鐘楼の規模と構造の解明を目的として、2020年度には559次D区とE区を含む基壇全面の345㎡を調査した。調査は7月1日より開始し、10月7日に終了した。

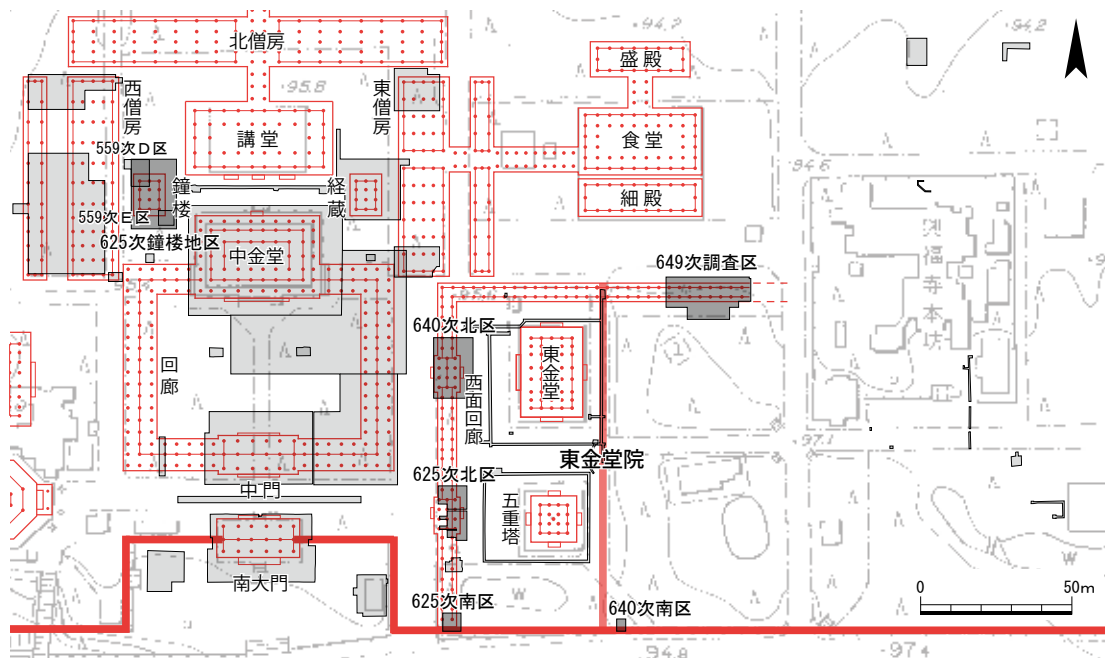
東金堂院の調査では、2020・2021年度に2つずつ、2022年度に1つの調査区を設定した。2020年度は、五重塔の西正面に開く門とそれに接続する西面回廊を含む625次北区136㎡、南面を区画する築地塀の構造をあきらかにするための625次南区33㎡を設定した。調査面積の合計は169㎡である。調査は7月2日より開始し、10月15日に終了した。

2021年度には、東金堂の西正面に開く門とそれに取り付く西面回廊の規模と構造をあきらかにすることを目的とする640次北区260㎡、五重塔の南東で南面築地塀の解明を目的とする640次南区12㎡を設定した。調査面積の合計は272㎡である。調査は2021年7月13日に開始し、11月4日に終了した。

2022年度の649次調査は、北面回廊の規模と構造をあきらかにし、東金堂院の規模を把握することを目的として、東金堂の北東約43mの位置に335㎡の調査区を設定した。このうち、12㎡が既調査区(『興福寺防災施設工事・発掘報告書』1978年、以下『防災報告』)と重複している。調査は7月6日より開始し、11月17日に終了した。

第1表 調査経過

2020年度(625次)	2021年度(640次)	2022年度(649次)
6月26日 鐘楼縄張り	6月9日 現地協議、北区縄張り	6月23日 現地協議、地中レーダー探査
6月29日 北区、南区縄張り	7月13日 北区重機掘削開始(～8月6日)	6月28日 縄張り
7月1日 鐘楼重機掘削開始(～7月27日)	7月14日 北区手掘り調査開始	6月29日 調査区内フェンス基礎抜き立会
北区、南区手掘り調査開始	7月29日 南区縄張り	7月6日 重機掘削開始(～7月13日)
7月2日 鐘楼手掘り調査開始	8月24日 北区写真撮影	7月7日 手掘り調査開始
7月8日 北区、南区重機掘削開始(～7月29日)	9月16日 北区写真撮影	8月17日 拡張区重機掘削開始(～9月5日)
7月28日 鐘楼写真撮影	9月21日 北区写真撮影	8月24日 境内整備委員会視察
8月20日 鐘楼炭化材サンプル採取	9月29日 北区現場検討会	9月27日 写真撮影(ハイライダー)
8月26日 南区拡張区重機掘削開始(～8月27日)	10月4日 南区重機掘削	10月3日 現場検討会
9月4日 南区写真撮影	南区手掘り調査開始	10月6日 石材鑑定
9月9日 現場検討会、北区写真撮影	10月6日 記者発表	10月13日 記者発表
9月10日 全区写真撮影(ハイライダー)	10月8日 南区写真撮影	10月15日 現地見学会(来場者1,120名)
9月16日 鐘楼写真撮影	10月9日 現地見学会(来場者949名)	10月20日 写真撮影
9月18日 石材鑑定	10月12日 南区写真撮影	10月24日 砂撒き開始(～11月4日)
9月25日 記者発表	10月13日 南区写真撮影	10月25日 写真撮影
9月28日 現地見学会(来場者606名)	10月15日 北区写真撮影(ハイライダー)	10月27日 写真撮影
9月29日 鐘楼写真撮影	10月19日 南区写真撮影	土壌サンプル採取(～11月2日)
鐘楼土壌サンプル採取(～9月30日)	10月20日 石材鑑定	11月2日 写真撮影
10月1日 南区写真撮影	10月22日 南区写真撮影	11月17日 埋め戻し完了、調査終了
10月2日 鐘楼砂撒き完了	10月27日 「花の松」の石碑基壇の解体立会	
北区土壌サンプル採取(～10月7日)	北区砂撒き開始(～11月2日)	
10月7日 南区写真撮影	10月28日 北区写真撮影	
10月15日 全区埋め戻し、砂撒き完了、調査終了	10月29日 北区写真撮影	
	南区砂撒き	
	11月1日 南区埋め戻し完了	
	11月4日 北区埋め戻し完了、調査終了	



第1図 調査区位置図 1:2500

第2表 興福寺鐘楼・東金堂・五重塔略年表

和 暦	西 暦	鐘 楼	東金堂	五重塔	備 考	典 拠
	720 頃	創建				『興福寺流記』
神亀 3	726		創建			『興福寺流記』
天平 2	730			創建		『興福寺流記』
元慶 2	878	焼失				『日本三代実録』
元慶 5	881	再建			鐘楼を造る料を充てる	『日本三代実録』
寛仁 元	1017		焼失	焼失		『御堂関白記』『日本紀略』『扶桑略記』ほか
長元 4	1031		再建	再建		『興福寺流記』『日本紀略』『小右記』
永承 元	1046	焼失	焼失	焼失		『興福寺流記』『造興福寺記』『扶桑略記』ほか
永承 3	1048	再建	再建		諸堂供養、東金堂手斧始	『造興福寺記』『扶桑略記』
康平 3	1060	焼失	焼失	焼失		『康平記』『扶桑略記』『三会定一記』
治暦 3	1067	再建	再建		東金堂供養	『扶桑略記』『興福寺流記』
承暦 2	1078			再建		『水左記』『三会定一記』
永長 元	1096	焼失				『中右記』『後二条師通記』ほか
康和 5	1103	再建				『中右記』
治承 4	1180	焼失	焼失	焼失		『玉葉』『三会定一記』
養和 元	1181	再建				『養和元年記』ほか
寿永 元	1182		再建			『中臣祐重記』
	1200 以降	再建				『春日大社文書』16
建仁 元	1201			再建		『春日神社文書』所収「源通親書状礼紙」
元久 3	1206			再建	回廊も竣工	『三長記』
建治 3	1277	焼失				『興福寺略年代記』ほか
弘安 8	1285	再建				『三会定一記』
嘉暦 2	1327	焼失				『大乘院日記目録』ほか
文和 5	1356		焼失	焼失		『嘉元記』『細々要記抜書』『法隆寺別当次第』『園太暦』
応安 3	1370		再建			『細々要記抜書』
嘉慶 2	1388			再建		『細々要記抜書』
応永 5	1398	(再建年不明)			鐘楼・経蔵は造立	『寺門事条々聞書』
応永 18	1411		焼失	焼失		『東寺執行日記』『大乘院日記目録』『興福寺炎上再建記』『興福寺別当次第』
応永 22	1415		再建			『古記部類』『興福寺東金堂記』『興福寺炎上再建記』
応永 33	1426			再建		『古記部類』
享保 2	1717	焼失				『南都年代記』

参考文献 太田博太郎『南都七大寺の歴史と年表』岩波書店、1979。
 戴中五百樹「奈良時代に於ける興福寺の造営と瓦」『南都仏教』64、1990。
 戴中五百樹「平安時代に於ける興福寺の造営と瓦」『仏教芸術』194、1991。
 戴中五百樹「鎌倉時代に於ける興福寺の造営と瓦（上）」『仏教芸術』257、2001。
 戴中五百樹「南北朝・室町時代に於ける興福寺の造営と瓦」『立命館大学考古学論集Ⅱ』2001。
 戴中五百樹「安土桃山・江戸時代に於ける興福寺の造営と瓦」『帝塚山大学考古学研究報告』VI、2005。